

元気のヒント

◀66▶



徳島大学病院歯科衛生室

日野出 大輔

日本の低体重児出産は増加傾向にあり、人口動態統計では、1985年の5.5%から2010年の9.6%へと増えています。低体重児出産や早産は、周産期死亡率の上昇や新生児の重篤な神経性疾患発症とも関連するため、予防することが非常に重要です。

諸外国において近年、歯周病罹患と低体重児出産、早産との関連性が報告されています。徳島県においても05年度に、無料妊婦歯科健康診査と口腔保健調査を実施しました。

出産後に郵送で、出生時体重などの有効回答が得ら

低体重児出産

れた220人の分析結果(図参照)によると、妊娠中の喫煙者と歯周炎のある人に低体重児出産が多く認められました。バイアスを考慮した統計解析から、歯周炎は約3倍、妊娠中の喫煙は約6倍、低体重児出産のリスクを高めることが明らかとなりました。

また、12年度に1877人の妊婦を対象とした県の保健調査で、3分の1以上が「歯がしみる」「歯肉からの出血」など、歯・口に気になる症状があると答えています。

その一方で「定期的に歯科健康診査を受けている」と答えた者は35%にとどまっています。健康診査を受けている人は、受けていない人と比較して、歯・口に気になる症状は少なく、歯

積極的に健康診査を

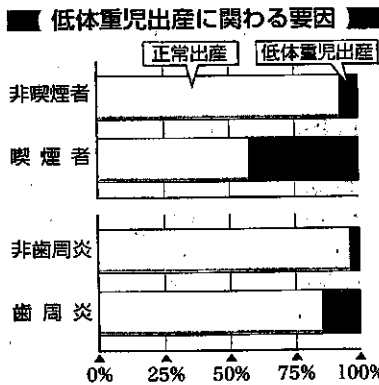
周病とその予防方法に関する知識や理解度も高いという結果でした。

喫煙に関しては、妊娠判明前には対象者の15%が喫煙しており、妊娠が判明した後も4%の人は喫煙を継続しています。

健康な若年成人が健康診査や保健指導を受ける機会には、歯科保健の分野に限らず非常に少ないのが現状です。しかし、妊娠、出産は女性のライフステージにおける一大転換期です。自身の健康だけではなく、胎児の発育にも配慮した生活を送らなければならぬことを自覚させられる時期でもあります。

この機会をチャームとして、喫煙者に対しては、歯科保健医療関係者からの禁煙支援も必要となります。妊婦歯科健康診査と、適切な歯科保健指導を積極的に受けていただきたいと思えます。

現在、無料の歯科保健指導が一部の市町村や産科医院で行われています。出産後も、親子そろってお口の管理をしてもいいのではないでしょうか。かかりつけの歯科医院を持ち、妊娠前から定期歯科健康診査を受けることをお勧めします。



徳島大学病院での妊婦歯科健康診査

喫煙や歯周炎に関連